熬物

一巳ノ上刻　御元服　新官　兼倶（○中略）
二（杉燒（根ブカ）香物）　御汁（スマシ）（生鱈柚）　昆布　三（大血　鯉コヾリ　ヲハリ大根）

〔倭名類聚抄　十六 魚鳥〕臇　玉篇云、臇（音雖一音淺、和名以利毛乃、）少汁臛也、

〔伊呂波字類抄　伊 飮食〕臇（イリモノ、小汁臛亦作ニ㷷熼ー、）　煎物（同）

〔類聚名義抄　四 火〕煎（子連反　イル　ニル）　熬（イル　ヤイタナ　イリタナ　アフリ物）

〔平他字類抄　上 飮食〕煎（イリモノ、セム、）

〔書言字考節用集　六 服食〕熬物（イリモノ）

〔易林本節用集　伊 衣食〕熬付（イリツケ）

〔空穗物語　國譲 上〕おとゞ御まへに入めして、てうせさせ給て、けふじてまいる、藤つぼはあゆならぬいを、いりてまいり給、

〔今昔物語　二十 八〕金峯山別當食ニ毒茸一不レ醉語第十八
今昔、金峯山ノ別當ニテ有ケル老僧有ケリ、（○中略）夜明テ未ダ朝ニ別當ノ許ニ人ヲ遣テ、急ト御座セト云ハセタレバ、別當程モ无ク、杖ヲ突テ出來タリ、房主指向ヒ居テ云ク、昨日人ノ微妙キ平茸ヲ給ヒタリシヲ、煎物ニシテ食セムトテ申シ候ヒツル也、年老テハ此樣ノ美物ノ欲ク侍ル也ナド語ラヘバ、別當喜テ打ウナヅキテ居タルニ、糄ヲシテ此ノ和太利ノ煎物ニ温メテ、汁物ニテ食セタレバ、別當糸吉ク食ツ、

煎鯛
煎鯉

〔料理物語　煮物〕いり鯛　さしみよりすこしあつく作り候、たいにてもこいにても、子を半分はつみきり、半ぶんはくだきて、いり酒にすをおとしはしらかし、出しさまにたいも子も入、やがてもり候、にえ過候へばあしく候、
煎鯉も　右之ごとくつかまつり出し候